

特別支援教育部会

**令和6年度
1月例会報告**



ブロック名	月例会	参加人数	会場
A1ブロック	1月	43人	千葉市内小学校

実践報告会

1. グループごとに実践報告
- 略案を用いて9グループに分かれてグループごとに実践報告を行った。
2. グループごとに発表
- ・各教科から実践報告を出し合ったことでとても参考になった。
 - ・それぞれ学校種が違ってもあり、情報共有の場が大切であることを感じた。
 - ・フォルダにそれぞれの略案が格納されたので、今後も継続していくことで授業の引き出しが増えるという意見があがった。

ブロック名	月例会	参加人数	会場
A2ブロック	1月	18人	千葉市内小学校

情報交換会

5 グループに分かれて意見を出しあい、発表をしあった。

1 げんきキャンプについて

プログラム：外部施設の利用、野外炊飯（ポップコーン・ホットドック・流しそうめんなど）、モルック、
パターゴルフ

（学校からもっていくと盛り上がったもの）ボールプール・水鉄砲・フリスビー・しゃぼん玉・
ジャンボオセロ

（夏）ザリガニつり、水遊び、すいかわり・もの運びリレー、伝言ゲーム

（冬）キャンドルサービス・焼き芋

R8 年度の方針が R7 年度の反省による、そのために、反省をしっかりあげていきたい。

グループしぼりがあったので、事前に交流・話し合いの必要。

バスが基本のような交流ができるとよいかも（近場の交流は必須）

下見に一緒にいくとか、タブレットを使うとかして交流計画をたてていきたい。

2 交流（校内交流・逆交流・居住地）

逆交流 国語、算数のみ 養護教育センターへ相談している人のみ逆交流を許可している。

手帳を持っていない子の交流（クラス担任にお願いしているところもある）

交流 技能教科（体育・図工・音楽・英語）の交流＝一人で行って帰って来ることができる子
高学年になると障害理解などの交流が難しい。

イベント・歌の練習ためなど

交流のため、支援級で学べる時間割は毎日調整している

居住地 年3～4回の学校もあれば、月1回、2か月に1回など学校によってさまざまな実態がある。

交流内容は、学習、給食など

日程・持ち物などの情報共有が難しいところがある。通知がほしい。などの面がある。

3 成績

T-compas での成績表は次の担任が困るので使用しているが、書式など使いにくいところがあるので独自の書式にしている学校もあった。

2種類の通知表（通常級と支援級の2枚の通知表の作成）

文章の列と評価列の通知表を独自で行っている。

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Bブロック	1月	38人	千葉市中央コミュニティセンター

講話 演題「自閉情緒学級の生徒の進路指導と学習補充」

講師 千葉市内小学校 校長

○学校間グループ毎の情報交換会（20分程度）

- ・手帳がとれない生徒への進路指導について、各学校ではどのように対応しているか。6～8人ほどのグループで5グループに分かれて情報交換会を行い、各グループでの話し合いの様子を講師の先生から助言をいただきながら会が進行した。

○講話

- ・自閉情緒学級の生徒の進路指導と学習補充（25分程度）

療育手帳が取得できるか、できないか。そして、手帳の更新ができるか、できないかで進路指導の方向性が異なる。手帳があることにより生徒の進路の選択肢が増えることにつながる。

高等学校卒業資格を希望する場合の進路指導の場合。夢と希望をもって高校生活ができるように卒業後を見据えた進路指導を行うことが大切。

学習補充が必要な生徒への教科指導の場合。支援学級及び通常学級での交流の指導を行うことが大切。

- ・事前アンケートについての説明（5分）

生活リズムが乱れて朝登校できない生徒への対応 → 外部機関への接続。

小学校と中学校の交流 → 地域交流や異校種交流などイベントから始めるとよい。

知的に中・重度の生徒が特学を入級する場合 → 保護者・本人と実施できる合理的配慮と合意形成を。

特別支援学級の道徳の指導 → 日々の教育活動すべてが道徳教育

○連絡

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Cブロック	1月	36人	オンライン開催 (配信元：千葉市内小学校)

○推進大会報告〈きこえの教室とは〉

- (1) きこえの教室紹介動画
- (2) 「なんちょうなんなん」 難聴理解の促進動画 (YouTube で閲覧可能)

○やまびこルーム保護者説明会報告〈療育との連携〉

- (1) きこえの教室の概要
 - ・個別学習、グループ学習を実施
 - ・環境調整…児童にかかわる機関との連携、啓発
 - ・情報保障…音声中心の授業や、水泳、集会、行事など聞こえにくい場面でのサポート
- (2) きこえの教室の学習内容
 - ・語彙を増やす学習
 - ・聴覚活用
 - ・発音学習
 - ・難聴理解、難聴理解授業
 - ・仲間づくり
 - ・進路指導
 - ・心理面サポート
- (3) 小学校入学に向けて
 - ・入学先の小学校へ伝えるタイミング、伝えること
 - ・支援が必要になりそうな学習、行事
 - ・小学生の前にできるとよいこと
- (4) 質疑応答

○県教研報告〈進学に向けて〉

- (1) ICT を活用した交流会の実施
 - ・1年目(2022年)の実践…オンライン交流会が実施できるか
 - ・2年目(2023年)の実践…ゲストティーチャーに卒業生を招いてオンライン交流
 - ・オンライン交流会に参加した卒業生の聞き取り
- (2) きこえのサポートブック…自分の聞こえにくさをまとめた資料
 - ・難聴の種類、きこえの程度、使用補聴機器の説明、場面ごとの聞こえにくさ、小学校で受けていた配慮 等
 - ・自己理解と他者への説明を促進し、難聴児自身が必要な支援を求めるスキルを育成する効果があり、それが中学校生活への充実度につながっている。

ブロック名	月例会	参加人数	会場
D ブロック	1 月	19 人	オンライン

1 年間の振り返り・次年度の見通し

4 グループに分かれて意見を出しあい、発表をしあった。

1 1 年間の振り返り

- ・小学校では、「中学校の生活について」共有のギガタブ教材を使用して指導した。高学年の児童にとって、中学校を調べたり知ったりする機会となった。進路学習というテーマを意識することが少なかったためよい機会となった。
- ・ジャムボードに代わるフィグジャムの研修が良かった。ジャムボードの教材で PDF になっているものは使える。フィグジャムの利用方法をさらに知りたい。
- ・ギガタブの使い方にまだ慣れず、指導に生かせていない。ギガタブ教材の作り方研修がわかりやすかった。
- ・小から中へ・中から高への進路学習を取り上げたことで、つながりで支援できることは子供に有益である。コロナ前は、中学校通級担当者が小学校通級で中学校の生活の学習をしていた。児童向けとその保護者向けに話してくれて有効であった。
- ・講師の助言で、小学校の進路学習はキャリア教育としてとらえることが分かった。

2 次年度の見通し 研修希望

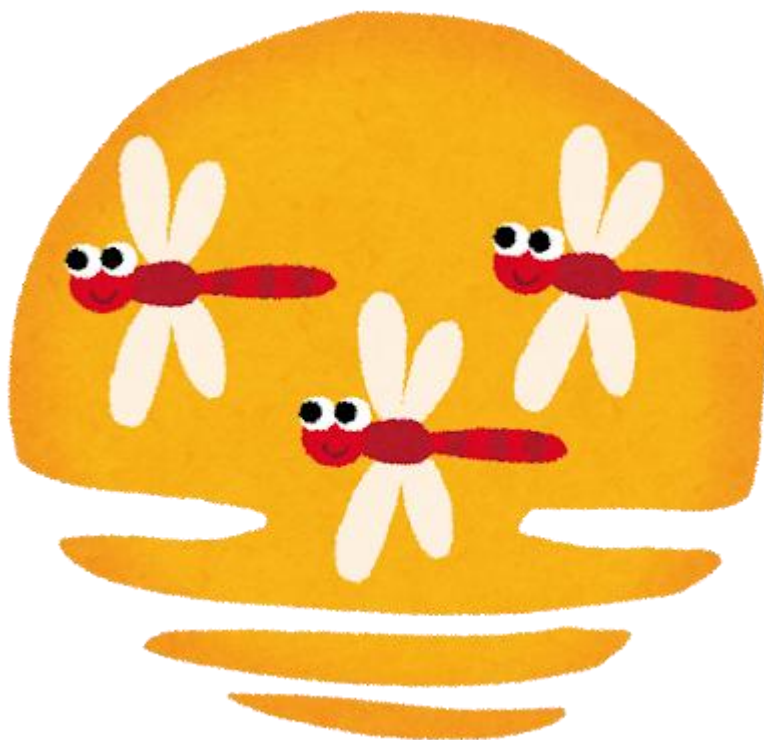
- ・施設等の見学をしたい。ステップルーム、高校の通級、泉高校、サポート校、ライトポート、教育センターなど。
- ・読み書きスクリーニングや WISCV などの演習や解釈、検査結果に応じた指導について知りたい。
- ・新しい先生方が増えたので、教材を持ち寄って指導方法を伝えあいたい。
- ・ギガタブ教材に限らずプリント教材も共有したい。
- ・気軽な情報共有の場、自由に悩みや指導について話す時間が欲しい。
- ・特性に合わせた教材や、限られた通級の指導で効果のある指導法を知りたい。
- ・フィグジャムの研修。
- ・通常学級に対しての障害理解教育。

3 推進委員より

- ・会計報告について→了承を得た。
- ・来年度の推進委員について
今年度の委員が引き続き務める。→了承を得た。
- ・県教研について
来年度 6 月例会で、大まかな内容の報告と講師助言を予定。
1 月例会で、発表内容の報告を予定。

特別支援教育部会

**令和6年度
11月例会報告**



ブロック名	月例会	参加人数	会場
A1ブロック	11月	62人	千葉市内小学校
1 「自立活動」について（演習含む） 集中できる時間をつくる。座席配置は大切。 最初から最後まで自分一人で行えることが理想。実態に応じてエラーが出ないように、できるようになってから一人で課題に取り組ませる。 2 各教科指導について（演習含む） 「国語」「算数」 ○教育課程の編成 〈知的障害特別支援学級〉 ・ 特別の教育課程は概ね学級として編成が可能である。 → 学年は異なっても、知的障害の程度や適応状態が同程度であるため。 ・ 交流学級と特別支援学級での指導については、特別支援学級の時間割作成を優先したほうが良い。 〈自閉症・情緒障害特別支援学級〉 ・ 高機能自閉症～知的障害のある自閉症の児童生徒が混在している。 → 高機能自閉症の指導内容と知的障害のある自閉症の指導内容は違う。 → 学級として教育課程の編成ができにくいため、学年や状態のグループ化が必要である。 ○授業づくりの流れ 特別支援学級における国語科・算数科の授業づくりは、学習指導要領と一人一人の個別の指導計画を根拠として、下記のようなプロセスを大切にしながら進めていく。 学級全体における国語（算数）科指導方法の決定 ↓ 国語（算数）科年間指導計画の作成 ① 指導内容の軽重をつける（時数の増減） ② 段階的、系統的な指導を心掛ける ③ 他教科や領域、交流及び共同学習との関連性を図る ④ 必要なら下学年の教科（教材）の使用を検討し、目標の整合性を図る その際は、学年（生活年齢）への配慮を行う 3 交流について 目的をはっきりさせ保護者と共有して進めていく 4 日常生活の指導（各教科を合わせた指導）について アイスブレイク 鏡文字で字を書くことで文字を書くことが苦手な児童の気持ちを理解する。 ある・なしクイズ 等 5 質疑・応答			

ブロック名	月例会	参加人数	会場
A2 ブロック	1 1 月	2 0 人	養護教育センター

○情報交換会

テーマ「性教育に関すること」

困り感

- ・人との距離感
- ・下着等における感覚過敏な様子の子への対応
- ・女子の性に関する対応
- ・家庭との連携

→こだわりを少しずつ和らげ、社会に適応できる子を目指す。(例 服が着替えられない→体操服に着替えるから始める。)

同性介助が必須。できない場合は、管理職・学校全体をあげて対応をしていく。

家族の協力・連携が重要

○知的障害の生徒に対する性教育の実践の講話

- ・小学校段階から、身だしなみを整えることや、体の清潔などを伝えていくことがとても大切。
- ・見本を伝えたり、やり方を伝えたりする支援ができるうちに対応をしていくことが大切。
- 学習指導要領知的高等部、中学保健体育、高等学校保健体育を参照
- ・文科省の「安全教育推進事業」のサイト・書籍・インターネットサイト（詳しくは、資料参照）を使って指導。
- ・実践例

体の清潔（ひげの扱い・下着・毛の処理）

二次性徴（男女の体のしくみ）

月経（月経痛・使用物の処理）

男女の距離感（心地よい距離感を実際にはかる、人と比べる、具体例（腕1本分など）で示す。）

異性とのかかわり

場面指導

多様な性

○助言者の先生より

性教育の必要性を親に伝えることは、教師ができること。気づかせることも大切。

管理職が入る等、複数で対応することが大切。

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Bブロック	11月	41人	千葉市内高等学校

千葉県立泉高等学校（地域連携アクティブスクール）

授業見学・学校説明

○授業見学

- ・6限の授業を自由に参観。少人数指導が行われており、教室に15名程度。教科によっては1クラスを3グループに分けて手厚い指導を行っている。

○学校説明

- ・地域連携アクティブスクールについて

1年次「ベーシック」という授業あり。国・数・理・社・英を実態に応じて小学校段階から学ぶ。「学び直し」の授業。

- ・独自の入学者選抜

3教科+面接、作文

3教科の点数よりも「高校で心機一転がんばりたい」「泉高校に入学してこうなりたい」というビジョンをもつことが重要。入学者の20%以上が長欠生徒。復帰率は67%

- ・教育相談体制

SSW週2、SC週1、通級週3

通級担当→特別支援学級卒業者 下学年対応による積み重ねがある。厳しいがなんとか進級・卒業できる。

それよりも、通常級にいて支援を受けてこなかった子のほうが積み重ねがなく厳しい。

今回の地域連携アクティブスクールの取り組みについて学んだことを、勤務校における個別最適な学びや進路指導に生かしていくことを確認。

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Cブロック	11月	39人	千葉市内小学校

◎構音検査について

○事例の児童の実態について

- ・サ行音、ザ行音、[ツ] の舌の動きが後方化
- ・[ケ] が [テ]、[ゲ] が [デ] 舌の動きが前方化
- ・[キ] [リ] [ギ] キャ行音、リャ行音、ギャ行音が側音化

○指導の順序について

- ・早く治りやすい発音から指導する。
- ・会話の中でサ行音が正しくできていたら① [ケ] [ゲ]、②サ行音、ザ行音、[ツ]、③側音
- ・発達の順序や本人の希望（名前に課題音がある等）という観点もある。
- ・サ行音は発音できていることもあるため、舌の筋力をつけていく（体づくり）
- ・[ケ] は発音できていないため、発音の仕方を獲得していく（テクニック）
- ・側音化は [キ] から始めると良い。（生活している中で使用頻度が高いため）

◎口の体操について

○「何のために口の体操をしているのか」を常に子供に伝える。

○奥舌を凹ませて、口蓋垂が見えるようにする。

○サ行音、ザ行音、[ツ] を明瞭にするため、舌先を広げる運動を行う。

○ライトを当てるときは、注目させたいところに当てる。

○舌尖の挙上運動

- ・舌が下顎につかないようにする。
- ・舌圧子で優しく触り、触覚刺激を与える。

○左右口角接触運動

- ・静止していられるとサ行音、ザ行音、[ツ] が安定していく。
- ・舌圧子で触る、手本を見せるなどの刺激を与える。

○ポッピング

- ・舌の縁の力が弱いため、舌が後ろに下がっている。
- ・下の奥歯の横が吸い上がっているかどうか。

○べろずもう

- ・舌の横の筋肉を縮める（サ行音、ザ行音、[ツ] の改善のため）

◎ [ケ] の発音

○無声音の [カ(k)] をうがいの音として練習。[エ] とつなげて挟む。[エ] [k] [エ]

○大げさに発音することで聴覚刺激を与える。

○少し上を向くことで奥舌を上げやすくなる。

◎ [キ] の発音

○舌が浮いているときは、舌先を下の歯の裏につけて発音する。

※「できるようになったこと」「できるようになっていくこと」を指導の最後に伝える。

ブロック名	月例会	参加人数	会場
D ブロック	11 月	16 人	千葉市内中学校

実践報告と Jamboard の代替教材の研修

1 実践報告

〈特性に合わせた進路学習について〉

実践の手順

- ・小学校用と中学校用のギガタブを使った教材を各学校で共有した。
- ・児童生徒の特性や実態に合わせ、各担当者が教材を変更した。
- ・変更した教材を使って、個別で学習を行った。学習実施前と後に児童生徒にアンケートを行い学習の効果や受け止め方について確認した。担当者の感想も確認した。

実践報告

小中 10 校から実践報告を行った。

- ・小学校通級では、主に 6 年生対象に「中学校ってどんなところ？」についてギガタブ教材を使って授業を行った。学習前は、中学校へのイメージを持っていない児童が多く「中学校は難しい」との意見が多かったが、学習後は「定期テストが心配だけど部活動は楽しみ」と考えるように変化した。
- ・中学校通級では、「中 2 進路学習」「勉強が苦手な生徒向け進路学習」についてギガタブ教材を使って授業を行った。学習前は、高校などの進路について考えたくない生徒が多く「難しい・不安・心配」との意見が多かった。学習後は「頑張りたい」と意欲的に考えるように変化した。

2 Jamboard の代替教材の研修

講師 千葉市教育センター ICT 支援員

- ・「ふきだしくん」の使い方

ホワイトボード機能。すぐに使うことができ、児童生徒の声を一斉に可視化できる。保存機能がないため、スクリーンショットで保存が必要。

- ・「F i g J a m」の使い方

ボードの新規作成、描画ツールの使い方、付箋と図形の使い方、マインドマップ・コネクター・セクション・スタンプなど様々な機能の使い方を紹介していただいた。児童生徒と共同で編集することができる。新しい教材のため、それぞれの担当者が教材を「F i g J a m」で作成し実際に授業で使ってみて、使い方や良い面・工夫が必要な面について共有していきたい。

特別支援教育部会

**令和6年度
10月例会報告**



ブロック名	月例会	参加人数	会場
A 1	1 0 月	6 8 名	市内小学校

研究授業 国語 おはなしをよもう「やまこえ のこえ かわこえて」

○各グループより

〈絵本について〉

- ・子供たちの経験に合わせたものでよかった。リズムカルな言葉や繰り返しのある言葉があって覚えやすく楽しい絵本。
- ・気持ちの変化が読み取ることが難しい絵本だったのではないかな。劇遊びに合った絵本の選定が必要なのではないかな。

〈劇について〉

- ・自分たちでお面を作って表情を変えられるのがよかった。
- ・ねらいは達成できていたのか。→劇遊びが有効な手立てであったのか。
- ・気持ちの度合いは数値化しなくてもよかった。

〈その他〉

- ・小道具や場作りが子供たちと一緒に作っていることも意欲や愛着が高められていてよかった。
- ・学級の中で行事ごとに絵日記を行い、その中から気持ちを表す言葉を「言葉の宝箱」として掲示してあるのが素敵。

○講師より

- ・授業を考える時に悩むことがあると思うが、子供たちの実態に合っているかを考えて授業者が「これがいい。」と思ったら、自信をもって進めることが大切。
- ・授業を組み立てる時に、「今日の授業の売り」を一言で表せるように。
→参観して欲しいところにつながる。

〈今回の授業について〉

- ・今回の授業は、教師と子供たちの信頼関係ができていることがよくわかる授業だった。
- ・飽きるくらいまで劇をやっているのではないかな。今回はワークシートの記入があったが、書かなくてもよいのではないかな。
- ・隣の教室が空いていたので場面で部屋を替えてお話の世界を作ってもよいのではないかな。
→場の構造化（今回は、子供たちがよくわかっていたので構造化しなくてもよかった。）
- ・大道具、小道具
→とてもよかった。だんだんやる気になっていくのは、繰り返しの良さ。
- ・国語の学習なので言葉を大切にしてほしい。（お代、川魚、おまけ）
→子供が意味をわかるように、言葉の説明や確認をする。

ブロック名	月例会	参加人数	会場
A2	10月	34名	千葉市内小学校

【実践報告会】

○国語

言葉遊びをしよう…語彙を増やすために、生活の中で活用できる言葉で活動

写真を活用した「言葉ウォークラリー」、「しりとり遊び」「言葉合わせカードゲーム」

アナウンサー遊び、スリーヒントクイズ、頭おしりゲーム、質問に答えてすごろくなどの遊び

春のくらし…季節にまつわる言葉を探し、ギガタブで写真に撮るなどして文をつくる。

まいごのかぎ…場面ごとに区切って登場人物の気持ちを可視化しグラフとしてまとめる。

手紙をかく…ポスクマサイトを活用し、デザイン選択をさせたうえで、だれに何を伝えたいか考え書く。

○算数

お買い物ごっこ…目的意識をもつために、親しみのあるファーストフード店に場を設定

時計…宿泊行事等の流れを時刻にして表す

お金…ファーストフード店や洋菓子店のサイトなどを活用して行う。

グラフ…健康カードを見て、1年生のときからの身長や体重の伸びを表す。

はかり…委員会活動（ペットボトルキャップの重さ）と絡めて行う。

○社会

地図記号を覚えよう…ギガタブの実践

○自立活動

ビジョントレーニング・バランスボール・ビーズ・指あみ・ルールのあるゲーム・UFO キャッチャーをしよう

○家庭科

調理…お茶を入れて保護者や管理職をもてなすなどで実践

裁縫…ランチマットの製作・エプロン・ナップザックを作成。生活に近づけ、汎化できるかを意識して行う。

○総合的な学習

世界の国を調べよう…料理や言語・おやつ・国旗について調べる。

なりたい職業…スライドで発表。卒業文集と並行して進める。

○日常生活の指導

身だしなみチェック…清潔感を大切に行う。ひも靴、ファスナー付きズボン、ベルト、ネクタイなど

○音楽

いろんな木の実（4年生教材を活用）…好きな楽器を選び、演奏動画を見ながら模倣する。

カップス、ドレミパイプ

○生活単元学習

・池をきれいにしよう…学校の課題について話し合い、池をきれいにするために協力して活動する。

宿題への取り組み…自分で選択し、自分で決められる子を育成するための実践。宿題計画シートの活用

【講師の先生より】

・教育課程での計画が大切。安全面・衛生面・保護者との関係を検討して活動内容を考える。

・字形を整えるためのアプリ「美文字」がおすすめ

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Bブロック	10月	31人	千葉市内中学校

授業研究

作業学習「冬野菜を育てて鍋パーティーをしよう」

講師 千葉市内小学校 校長

授業者 千葉市内中学校 教諭 2名

〈授業者より〉

- ・2つのグループをつくりそれぞれのリーダーを中心に話し合いをし、どんな野菜を、いつ、どのように植えるか、配置なども考えて作業を行っている。
- ・作業学習だけでなく、他の授業やことあるごとに話し合い活動を行ってきたので、話し合いにも慣れ、スムーズにできていた。
- ・教師主導ではなく、生徒たちが自主的に動き、作業をすることを目指していたので、必要以上の声掛けはしないようにしていた。どちらのグループとも、リーダーを中心に意欲的に作業・報告ができていた。
- ・作業学習で使えるように、技術の時間に畝作りのための木枠や、トンボなどを作った。それらの道具で畝を比較的効率的に作ることができた。
- ・畑作業以外には、スウェーデン刺繍をしている。できあがったものは、バザーなどがないため、お世話になった先生方にプレゼントをするなどしている。

〈協議 質問と授業者の回答〉

- ・教師、生徒とのコミュニケーションがしっかりできている。どれくらい発表の機会があるのか？
→ 様々な場面で、話し合い活動を継続的にやっている。
- ・収穫した野菜等はどうしていますか。苗や土などのお金の出どころは何費か。
→ 調理をするなどして食べている。

〈講師より〉

- ・常々、どのような手立てをすれば自ら動くことができるのか、見通しを持ちにくい子どもに、どう見通しを持たせるのか、を考えていくことが大切。
- ・今回の協議会でのグループ討議で、「自分ならこうする」という話題、発言があってもよかった。
- ・生徒たちが自主的に活動し、教師も生徒とともに作業をしている様子が大変よかった。生徒が穏やかで一生懸命。担任の色が出ていてよい。理屈ではなく、担任の思いが大切。
- ・生徒が教師に報告する場面があったが、困ったときにいつでも先生に伝えられる環境づくりも大切である。
- ・作付けについて：木枠が大きく、扱いづらいのではないか。1.5mの長さにして、3回でとる方がよい。ポットから苗を出して植えていく時、ペットボトルなどを利用すると、ガイド穴の深さが一定になる。
- ・作業学習か生活単元学習か、労働性の強弱によって変わってくる。一年を通して、労働の継続性のあるものであるとよい。
- ・「作業学習で収穫したものを食べてよいか」について
→ 学校判断でよい。作業のその先にあるものを知るために大切である。
- ・会計面について→教材費も含めて、市会計も前年に予算を立て、合わせて使えるので、使い道や考えを伝えて集金していくことが必要。

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Cブロック	10月	38人	千葉市教育会館大ホール
講師を迎えて事例検討 ○口蓋裂の手術が必要であるが、2回目以降、入学してから通院していない。鼻が陥没し、常に息が漏れる。 ・鼻をつまんで練習すると子音 s が良い音になるだろう。 ・反対咬合の児童のため、舌を出して [タ] の練習はできるかもしれない。 ○側音化構音が改善しない。発音時に舌が左に動いたり、舌の脱力が難しかったりする。こだわりが強く集中が続かない気質である。 ・まずは母音から確認が必要。([イ] [エ] が正しく発音できているか。) ・舌を出すことが嫌かもしれないが、舌の脱力を保つ練習をしっかりと行う。その後、[イ] [エ] の練習を行う。母音が改善すれば、他の発音改善しやすいのではないか。 ○大体の発音が母音かハ行になる。 ・両唇音（マ行、バ行、パ行）から練習。[ム] は発音できているため、マ行から練習してみてはどうか。 ・自分では上手に読めていると思っているため、自分の発音を聞かせてみてはどうか。 ○歯間化構音の指導について ・歯列の中で発音するのが日本語。 ・噛み合わせに問題がなければ、舌を口の中に入れる練習を行う。 ・舌が薄い、細長い場合は力が弱いいため、舌運動訓練が良い。 ○ [シ] が [ヒ] に置換。書字の誤りが度々ある。 ・自分が聞いている通りに書いているため、聞き取りの練習をしてはどうか。「シヒシヒ…」と発音して違う音だと認識させて、何が違うか自分の言葉で考えさせる。 ・[シ] は、舌の真ん中が上顎に当たらず、舌の真ん中から息を出す。 ・[ヒ] は、舌がどこにも当たらない。 ○イ列音の歪みがある。軽度の鼻咽腔閉鎖機能不全がある。 ・以前よりも発音は改善しているが、汎化が課題。発音を使いこなすことに重点を置く。発音練習をどんどんしていったほうが良いと思う。 ○口腔内が深く、斜視、アレルギーで年中鼻水が出ている。サ行音、ザ行音、ラ行音がダ行音と相互方向で誤っている。知的な遅れもありそう。 ・単語の中で気を付ければ発音できる。発音のゴールは、会話の中で正しく発音できること。通級を長い目で見てあげてはどうか。			

ブロック名	月例会	参加人数	会場
D ブロック	10 月	18 人	千葉市内中学校

授業研究会

「特性に合わせた進路学習について」

講師 千葉市内特別支援学校 教頭

授業者 千葉市内中学校 教諭

〈授業者より〉

- ・通級として、その生徒に合わせた進路学習を計画実践するために、在籍校と共通理解しながら進めた。
- ・中学2年生段階から高校の種類などの情報を含めた進路学習を実施し、どのような学校があるのか・自分の個性にあった進路は何かを考える機会とした。
- ・本日の授業は、情報量が多すぎたため、本人の理解が追い付かなかったと思う。授業のまとめの振り返りシートには「ちゃんと高校に行って高校の資格を取りたいと思った」と記入した。

〈協議 質問と授業者の回答〉

- ・進路学習を行うときの在籍校との協力はどうしているか。→ギガタブで教材の共有をして、担任に学習内容を渡している。
- ・今日の授業は、聞くことが多く情報量が多いと思った。→書くことが苦手なこの生徒に合わせて聞くのみの学習にした。情報量が多すぎたと思う。
- ・小学生に中学校の情報を伝え、マイナスのイメージとしてとらえる傾向がある。→中学校は、集団活動や難しくなる学習、部活動などで大変なイメージがあると思うが、高校は選択肢が増えて、中学で不登校であっても高校ではやりがいを持って生活できる。

〈講師より〉

- ・通級での進路学習の意義は、通級は在籍校のサポート役であることを第一に考える必要がある。在籍校と指導内容を共有して、在籍校から情報をもらってからサポートで指導をする。
- ・進路学習は、通常学級では3年生から動きだすことが多い。そのため、通級生徒には2年生段階から情報を伝えることは大切。本人よりも保護者には、早めに動いてもらうように伝えておくといよい。
- ・本人の自己理解がどの程度なのかによって学習内容を計画するとよい。知っている高校は？家の近くの高校は？など雑談の中で聞き、本人の理解度や自己理解度をさぐる。
- ・今日の授業は情報量が多い。その生徒の特性に合わせて内容を絞る、調べ学習につなげるなど、自分で調べるきっかけ作りができるとよい。
- ・対面授業は、その子の表情を見ながら言葉がけを工夫したり、教材を変えたりすることができる。
- ・自己理解が大切。あまりにも近い目標だと自分にはできないと理解してしまい、やる気がおきなくなる。遠い将来の話をする事で意欲が出てくる。現実と向き合わせるのではなく、将来の夢からおろして、今やっておいたほうがよいことにつなげるとよい。
- ・進路指導は中学校と高校にのみ位置づけられている。就学前から大学の期間はキャリア教育と広くとらえる。そのため、小学校ではキャリア教育として研究を進めるとよい。
- ・ICTの利用について、通級では治療教育アプローチと機能代替アプローチができる。教科学習の補充やSSTでの活用、コミュニケーションツールとしての活用がある。通級担当者それぞれが作成した教材をストックして、担当している児童生徒に合わせてアレンジして授業で生かすことは大切。

特別支援教育部会

**令和6年度
9月例会報告**



ブロック名	月例会	参加人数	会場
A 1	9 月	4 4 名	千葉市内小学校

○指導案検討

単元名 おはなしをよもう

「やまこえ のこえ かわこえて」 こいでやすこ 作 福音館書店

○グループ協議

〈単元について〉

- ・今までの授業の軌跡がわかるように掲示物があるとよいのではないか。
- ・お話の 6 ページ分は長いので、買い物場面に絞ってもよいのではないか。

〈ワークシートについて〉

- ・ふきだしただと何を書けばよいのかわからないのではないか。
→登場人物の顔をアップにしたり穴埋め方式にしたりするのはどうか。
- ・気持ちを書くことが難しいならば、○の中に表情だけを描くのはどうか。

○講師より

〈授業づくりで気をつけること〉

- ・「活動あって学びなし」に陥らないように、ねらいをはっきりさせることが大切。
- ・個々の教育的ニーズに答えているか。
- ・子供の思考の流れはどうか。
- ・単元計画的にあっているのか。
- ・児童の実態に記載されている内容が国語中心の内容になっているので、児童の様子が思い浮かぶように普段の実態を入れてよいのではないか。
- ・何を学ぶか、どのように学ぶか、どんな力を付けたいのかが明確か。

〈国語科学習指導案について〉

1 単元名 「おはなしをよもう」

国語科の内容では「読む」

2 読むことの目標と内容 例えば 1、2 年生

- ・構造と内容の把握：場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。
- ・精査・解釈：場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。
- ・考えの形成：文章の内容と自分の考えを結び付けて、感想をもつこと。
- ・共有：文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。

〈今回の指導案から〉

- ・指導案から「読むこと」を学ばせたいと読み取れる。
- ・お話の世界にどっぷりつからせたい。→指導計画から見直す必要があるかもしれない。

ブロック名	月例会	参加人数	会場
A-2ブロック	9月例会	37人	千葉市内特別支援学校

●千葉市立の特別支援学校（中・高等部）概要説明、見学

●日課表

生徒が見通しをもって活動できるようにするために、帯で時間割を作っている。

（普通学級）（重複学級）（訪問学級）の3つの時程が中学部にある。

- ・身体づくりでは、4つのグループに分けて20分間活動をしている。
- ・午前の教科学習では、学年単位で行うこともある。
- ・午後の課題学習では、前半を全体、後半は個に応じて指導を行い、数や言葉の定着を図っている。

●作業学習

- ・中学部では、作業学習（園芸・紙づくり・木工・クラフト・おりもの）がある。

- ・高等部では10個の作業班がある。

→職に就くための活動よりは、教科等に合わせた指導を重視して活動を行っている。

●学部構成

中学部には、特別支援学校（小学部）の児童や学区の支援級の児童が入学することが多い。

高等部には、中学部からの進学、学区の支援級、通常級（療育手帳ありの子）が入学することが多い。

●進学

就職、障害者高等技術専門校への進学、福祉サービス事業所に行くことが多い

●スクールバス

中学部は主に、スクールバスでの登下校

高等部は、基本的に、公共交通機関に使用を推奨。スクールバス等の対応もあり。

●入試

令和7年2月に入学者選考試験がある。（県立高校との併願は不可）

市教研 特別支援教育部会 例会報告書

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Bブロック	9月例会	45人	千葉市中央コミュニティーセンター

○グループ情報交換（各校の期限付き生徒、手帳のない生徒への対応）

- ・各学校の状況について
- ・交流について
- ・定期テストについて
- ・進路指導について
- ・手帳の取得に向けた動きについて
- ・上程について など

○講師による講義「期限付き生徒への対応について」

- ①交流をどのように進めていけばよいか
- ②通常級へ転級する可能性があることについて通常学級担任との連携の仕方、支援学級担任としての働きかけ方
- ③進路指導の進め方
- ④上程の時期と進め方

○質疑応答

- ・事前に回収したアンケートより回答
- ・グループ情報交換より出た質問について回答

○諸連絡

○解散

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Cブロック	9月	29人	千葉市内小学校

1 1月授業研究に向けて・きこえの教室につながる児童について

○1 1月の授業研究に向けたグループ協議

- ① 舌づくり、耳づくり、音づくりの指導計画にあたり、それぞれの目安の時間配分をどう設定すればよいか。
どの程度が一般的か。
 - ・舌づくりにしっかり時間をかけていく。(舌を広げる、舌の脱力など)
 - ・自分の歪んだ発音を自覚するため、耳づくりにも時間をかけたい。
 - ・時間で区切るのは難しいので、ステップだけでよい。
- ② [イ]・サ行音はもっともらしく聞こえている。歪みが目立つものはキ・ギ・リ音と考えるが、指導のスタートはどうすべきか。
 - ・[イ][ツ]サ行音、ザ行音、ラ行音は歪み。[エ][ケ][ゲ]も歪んでいるかもしれないため確認が必要。
 - ・音づくり[イ]の母音の口形をしっかり練習し、サ・ザ行音の練習から始めたほうが易しいのでは。
 - ・舌先の動きを改善していけば、サ行音は改善していくと予想。
 - ・音にこだわらず、舌づくりをテーマにしたらどうか。
 - ・いきなり[キ]は厳しいため、舌を平らにすることとサ行音にしてみてもどうか。
 - ・置換を10月までに治すのは厳しいのでは。(側音化構音があるため)
 - ・サ行音→ザ行音→[ツ]→(ラ行音(口の体操をしつつ))→[エ]→[ケ]→[ゲ]→イ列音
(全体的に並行して舌平ら)
- ③ 歪みの自覚がない児童へ構音指導を始めるにあたって、どのように伝えるか。
 - ・本児に自身の歪みの発音について伝えたか。指導開始時に確認したり、「なぜことばの教室に来たのか。」を児童と共有したりできたらよかったのではないか。
 - ・本児の気付きを促す手立てとして、録音だと端末によって聞こえ方が異なるため、担当者と本児の発音を実際に聞き比べるのはどうか。
 - ・ギガタブで録画して、舌の形を目で見て判断したらどうか。
- ④ その他
 - ・指導案の項目で、2が児童の実態、3が題材について、という順になると実態を踏まえて題材を考えられ、つながりがあるのでは。
 - ・指導案で本時がどこにあたるのか書いてほしい。

○きこえの教室につながる児童について

- ・難聴の種類について
- ・ことばの教室の入級相談からきこえの教室につながった事例紹介
- ・オーディオグラムの読み方について

ブロック名	月例会	参加人数	会場
D ブロック	9月例会	21人	オンライン

「特性に合わせた進路指導について～授業研究指導案をもとに～」

講師 千葉市内特別支援学校 教頭

授業者 千葉市内中学校 教諭

1 講師紹介

2 指導案の説明

3 グループごとの話し合い テーマ「進路学習について」

4 グループに分かれて、各学校での進路学習について話し合った。生徒の実態や年齢に応じて、どのような学習が有効なのか、また、実践の共有を行った。講師の先生にはグループに入ってください意見をいただいた。

4 グループごとに発表

＜A グループ＞

- ・小学校では、中学生になった姿が見えないので不安を抱えている。中学校でも通級を利用するかを確認する。中学校通級担当者と連携する。自己理解の学習では、長所がわからない子がいる。
- ・中1は、学校生活のモチベーションを上げる自己理解について。中2は、今自分に向いていることを考えて進路学習に進む。中3は、在籍校と連携して補足や面接練習。在籍校が主導になるようにしている。

＜B グループ＞

- ・小学校では、中学校のイメージを持たせ、将来の夢の話から今頑張ることを考える活動。保護者が中学校以降の心配をすることもある。
- ・中2後期頃から進路や将来を考え始める。進路指導は在籍校がメインなので連携が大切。

＜C グループ＞

- ・小学校では、自分発見の学習、自分の長所短所の学習、中学校についての学習。
- ・中学校では、進路指導は在籍校が主導。生活習慣やマナー、生きる力につながる学習。

＜D グループ＞

- ・小学校では、将来のことは夢レベルなので、いま必要なことは何かを学習している。自分の強みをつかみ、大事にしていくようにしている。6年生には中学校の情報を伝えている。
- ・中1は、中学校の生活で大切なことを伝えている。中2は、進路に不安を持つ生徒が増えるため、在籍校と連携して高校とはどんなところかを学習する。全学年に自立して生活していくための話をしている。

※講師指導

- ・児童生徒の発達段階や実態に合わせた教材選定が必要。自己理解の程度により学習時期を考える。
- ・進路指導は在籍校が主導なので、通級がメインにならないように気を付ける。
- ・通級・在籍校・保護者が情報共有すること。

5 その他

＜県教研に向けて＞

- ・テーマを進路学習にシぼることにする。
- ・11月例会までに各学校で、進路学習の実践を行い報告書作成と児童生徒のアンケート実施を依頼した。
- ・11月例会で報告書の発表を行う。

＜次回の連絡＞

- ・10月例会は、授業研究を千葉市内中学校で実施。駐車場有。

特別支援教育部会

**令和6年度
8月例会報告**



ブロック名	月例会	参加人数	会場
特別支援教育部会	8月	171人	ポートプラザちば

『発達障害のある子どもの支援や成長過程でのかかわり方 —障害のある娘の育ちにも触れながら—』

講師：植草学園短期大学 こども未来学科 特別教授

佐藤 慎二 氏

- 1 はじめのことば
- 2 講師入場・講師紹介
- 3 講演
- 4 お礼のことば
- 5 アンケートについて
- 6 おわりのことば

佐藤 慎二 氏（植草学園短期大学 こども未来学科 特別教授）

明治学院大学社会学部卒業。千葉大学教育学研究科修了。千葉県内の知的障害特別支援学校及び小学校での23年間の勤務を経て、植草大学現職。2024年度千葉県特別支援教育専門家チーム会議委員ほか。

【著書】

「入門 自閉症・情緒障害特別支援学級—今日からできる！自立活動の授業づくり—」（東洋館出版社 2019）

「通常学級の『特別』ではない支援教育—校内外支援体制・ユニバーサルデザイン・合理的配慮—」（同上 2022）など多数出版

【内容】

発達障害のある子供の学びについて、学習指導要領の観点や自身の娘の話を踏まえながら、具体的なお話を聞いた。「生きる力」を育てることが学習指導要領において重要になっている。しかし、ただ知識や技能を学んでも、知っているだけの状態になりやすく、生活の中で使えるように般化するのは難しいという課題がある。生きた学びは、障害のある児童・生徒ほど必要であるということから、授業で取り組んでいることが実社会・実生活の中で生きて使える知識・技能になっているのか、今一度振り返ることができた。

自立活動については、感情のコントロール（心理的な安定）に焦点をあてた具体的な授業の実践について学んだ。アイスブレイクとして、今の気持ちをワークシートに書き出してから、児童・生徒にとって苦手な活動をしたり、ゲームを使って実際の場面で感情のコントロールに取り組んだりするという実践例があった。ゲームで負けた時にパニックを起こす児童・生徒については、勝った時に負けた友達の存在や気持ちに気づくことができるようにすることや、どうしても悔しい気持ちが強いときには、「くやしいんだよボックス」の中で声を出すようにして、社会的に許される発散方法を児童・生徒が学ぶことができるようにすることといった方法を知ることができた。

講師のエネルギーにあふれた話し方に引き付けられ、あっという間の講義であった。また、講義の間には、アイスブレイクに使えるじゃんけんやミニゲームなどに取り組んだことで、会場が笑顔であふれていた。



【講義の様子①】



【講義の様子②】



【両手足し算じゃんけん】

特別支援教育部会

**令和6年度
6月例会報告**



ブロック名	月例会	参加人数	会場
A1ブロック	6月	53人	千葉市内小学校

○協力校による実践報告

①子供たちの様子

1. 子供たちの様子…写真で様子を紹介。
2. 普段の授業…1・2年生「たべたいな ホットケーキ」
国語「しろくまちゃんのほっとけーき」
→図工でも取り組んだ。(絵をかく会) 等
3. 教材など…検診は事前準備を行い、実際の器具を触ったり検診の仕方を確認したりする。
4. 環境…時間割の管理 移動式ホワイトボードで管理。
表面は今日、裏面が明日。交流は、名前マグネットで右側に記入。
どの先生が教室に入ってもわかるように。

②生活単元学習「あきまつりを ひらこう」

1. 秋になったと感じるものを発表し合う。
2. 秋の木の実や葉を集める。
3. 集めた物を使ってできるおもちゃやゲームを考え、秋祭りを計画する。
4. グループごとに何を作るか決める。
5. グループごとに秋の実や葉を生かしたおもちゃやゲームを作る。
6. 招待状やポスターを作る。
7. 接客の練習をする。
8. 交流級の友達を招待して秋祭りをを行う。

③音楽「みんなで鳴らそう！動こう！」

○手遊び歌「とことことちゃん」

人差し指と中指を足に見立て、腕や頭の上など体の上で動かす。

○季節の歌「虫の声」…クラスごとに担当の虫を決めて、演奏する。

(まつむし：トライアングル すずむし：鈴 こおろぎ：ギロ

くつわむし：マラカス うまおい：みんなで)

○リトミック「動物になりきろう」

ピアノの音に合わせてみんなでリトミックをする。

(人間：歩く くま：四つ這い うさぎ：ジャンプ ぞう：どっしり歩き

チーター：走る 「蛍の光」：座る)

④自立活動「いろいろロードをあるこう！」

○棒体操…動画を見ながら、新聞紙の棒を持って肩回りを動かす。

○3色の道を裸足で歩く活動

青の道…マットレス、ヨガマット、毛布を重ねている。

緑の道…傾斜のついた坂道を上る。

赤の道…高さのある箱の中に一歩ずつ足を入れて歩く。

○リラックスタイム…セラピーマットの上に横になり、体の力を抜く。教師からのマッサージを受ける。

ブロック名	月例会	参加人数	会場
A2ブロック	6月	45人	千葉市内小学校

国語科学習指導の実践 単元 : 「聞いて、話して、解決大作戦！」 千葉市内小学校

○授業者から

- ・子どもの実態から、「聞きたいから、聞く内容を考えて、話す」が国語の授業に重視されがちだが、本授業は話しを聞いて実践するコミュニケーション能力の、パーソナルコミュニケーションの実践に取り組み、生活単元や自立活動でなく、国語で授業を行った。
- ・子どもたちの力が発揮できるように手立てを講じた。
電話をかけるために、マニュアルを。順番を明確に示させるために、ぬいぐるみを。聞く・話す場面を明確化させるためにメガホンを使用した。

○グループ討議・発表

- 1・2グループ (L) : 子どもが楽しめるミッションだった。支援ツール（ぬいぐるみ）が話を聞く番、伝える番などわかりやすくてよい。
ロボットをテーマにすることで聞き手に回れる状況が作れてよい。
道順の課題を達成するための手立てがあるとよかった。
会話をつなげる手立てがあるとよかった。
支援ツールにルールをもたせると、日常の会話につなげられようになる。
- 3・4グループ (M) : ゲーム感覚ででき、子どもたちにとって話す必要性のある課題がよかった
ミッションとマニュアルの連携があるといいとおもった。そしてふりかえり等で明確になるとよかった。
活動を精選することで、より、聞く、話すことの大切さに気付くことができそう。
- 5・6グループ (H) : 再現性のある学習活動の設定があるとよりよかった。そのためにマニュアル本を自分でつくるなどの活動をいれても楽しそうだった。

○講師の先生の話

教育課程について

- ・特別支援学級の教育課程は、小・中学校学習指導要領に準ずる教育。必要がある場合は、特別の教育課程を編成できる。主な違いとしては、生活は内容が異なったり、自立活動、教科等合わせた指導ができたりするのが特別支援の魅力。
- ・特別支援学校学習指導要領では、「聞く、話す」（小学校学習指導要領「話す、聞く」と異なる。）
- ・単元と教材のちがい
- ・失敗から学ぶ学習展開があってもよい。そこにどのように学びをいれるかが指導のポイントである。

○アンケートより

- ・個々に合わせた課題の設定やそれぞれのツールアイテムがとても有効的で、楽しそうに活動していた。
- ・特別支援学級における国語の授業がどのようなものか学ぶことができた。
- ・楽しさの中に学びのめあてをどう落とし込んでいくか意識していきたい。

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Bブロック	6月	41人	千葉市内中学校

授業研究 「水と空気の性質」(理科)

授業者：千葉市内中学校教諭 2名

指導・助言者：千葉市内中学校 校長

1 授業

- (1) 前時の振り返りと、本時の学習目標の確認
- (2) 実験1 ガスバーナーで水を加熱し、温度を確認する(一人一実験)
- (3) 実験2 空気を温めたり冷やしたりしたときの変化を観察
- (4) 温められた空気の様子を観察(師範)
- (5) 次時の学習の予告

2 協議会

(1) 授業者より

- ・実生活に生かせる内容の学習という観点から、身近な「水と空気」という題材を扱った。
- ・目に見える変化を体験させ、興味を持ってほしいと考えた。
- ・授業中の生徒同士、また教師との会話の中で、学習内容を理解しているか、学習したことを活用できているか判断した。
- ・これまでの積み重ねが達成感につながっているように感じた。

(2) 参観者の感想・質疑

- ・これまでの積み重ねの成果、教師と生徒の良い関係が感じられる授業であった。段階を追って継続していくことで、力をつけることができると感じた。
- ・本時の学習目標達成のための時間配分に工夫が必要な点もあった。
- ・安全面の配慮や、作業手順の補助など、T.Tの役割分担の確認が事前にできていると良かったのでは。
- ・生徒個々の習熟度に差がある中で、全体をうまくまとめられていた。

(3) 指導・助言者より

- ・安全面の配慮について 授業開始前の様子も注意が必要。
- ・授業のきまり等については、日々の積み重ねが大切。
- ・予備実験の必要性について。
- ・一つの目標を全ての生徒にではなく、個々に合わせた目標を設定すると良い。
- ・動画教材等も活用していくとより効果的である。

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Cブロック	6月	30人	千葉市内小学校

1 ことばの教室 : 教材紹介・実践演習

5つのグループに分かれ、各グループリーダーの担当者をもとに教材紹介やその教材を用いた実践演習を行う。

3部制に分け、ローテーションで各グループを回る。

○口の体操

- ・音を出すときにどこを使っているかを考えて口の体操を行う。
- ・担当者も一緒に行い、イメージしやすくさせる。
- ・お菓子を使った体操の紹介。

○聞き分け

- ・ギガタブで動画を撮り、スクリーンチャプチャーを利用すると振り返りしやすい。
- ・子どもとの間に衝立を立てて、一緒に正誤を判断する。
- ・正しい音をたくさん聞かせて、正しい発音を覚えていく。

○音づくり

- ・舌づくりが大切。
- ・良いとき、悪いときを文や絵、書いたり話したりしてまとめる。
- ・プリントを渡すことで、子どもも保護者も「今、何の練習をしているか」が分かりやすい。

○音の定着

- ・スピーチや質問くじ、オノマトペカードで文作りなど、自分で文を考えて発言する練習を行う。
- ・音読は国語の教科書に限らず、他の教科や歌でも良い。(学年相応)
- ・必ずICレコーダーやギガタブを使って振り返りをして言語化させる。

○吃音

- ・対話を磨く方法として、上手な人の対話を観察する。
- ・卒業を迎えるためには、ことばの教室に通わなくても自分で何とかできる、また、相談相手がいるのであれば良いかと思う。子どもが「大丈夫。」と言っている、どうして大丈夫なのか説明できることが大切。

2 きこえの教室 : 情報交換会

県教研の提案に向け内容を協議した。難聴児同士の交流の大切さや、ロールモデルとして中学校の先輩の話を聞く機会があるとよいことを踏まえ、交流学习について話し合いを行った。

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Dブロック	6月	20人	千葉市内中学校

「ギガタブを使った教材づくりについて」

講師 千葉市内中学校教諭

1 研修内容・今後の予定の確認

- ・ギガタブのジャムボードで教材づくりをして、meet で使ってみる。そしてギガタブ共有ドライブ「市教研Dブロック」にそれぞれの先生が作成した教材を保存する。
- ・今後各自で、教材を実際の授業で使ってみたり、改善したりする。10月25日までに使ってみた感想や改善点などを投稿し、11月例会で発表しあう。また、ICT支援員に新しいアプリの使い方を教えてもらう。

2 ジャムボードを使った教材づくりの説明

- ① ギガタブのスライドを使って、教材の枠や画像、文字などの下地を作る。
- ② スライド画面左上のファイルからダウンロード、PNG画像で、作成したスライドページを保存する。
- ③ ジャムボードを開き、画面左の背景設定から左下をクリック。
- ④ グーグルドライブから最近使用したアイテム、作成したスライドを張り付ける。
- ⑤ 課題に合った付箋や文字をつけていく。
- ⑥ 課題の名前を付けて完成。

3 実際にジャムボードを使って、2人で教材を作る。

4 作った教材の発表

教師役と生徒役に分かれて、別室から meet でつなぎ、実際のリモート授業を行った。

画像やイラストが多く使われている教材は、興味関心を引きやすく集中して取り組める。また、筆記が苦手な児童生徒にとって取り組みやすい。

5 謝辞

6 その他

- ・8月例会のお知らせ

特別支援教育部会

**令和6年度
5月例会報告**



ブロック名	月例会	参加人数	会場
A1ブロック	5月	56人	千葉市教育会館大ホール

1 推進委員自己紹介

2 ブロックテーマについて「児童の実態に合わせた指導・支援の工夫～楽しい授業を目指して～」

3 年間計画（案）

日時	内容	会場	講師
6/18（火）	実践報告	千葉市内 小学校	
9/17（火）	指導案検討	未定	千葉市内小学校 校長
10/22（火）	授業研究	未定	千葉市内小学校 校長
11/19（火）	学級づくり、校内支援体制 子供の支援相談について	未定	千葉市内小学校 主幹教諭
1/21（火）	略案を用いての実践報告	千葉市内 小学校	

3 実践報告と授業研究について

4 自己紹介・情報交換 テーマ「子どもたちの様子、困っていることについて」

- ・実態差が多い中での一斉授業について
- ・交流授業の持ち方や評価について
- ・教育支援計画の作成の仕方について
- ・トイレトレーニングについて
- ・通常学級における支援の必要な児童への手立てについて

5 今後の連絡手段について

6 アンケートについて

市教研 特別支援教育部会 例会報告書

ブロック名	月例会	参加人数	会場
A2ブロック	5月	40人	千葉市教育会館大ホール

1 年間活動計画について

テーマ	月日	内 容	会 場	助 言 者
楽しい授業を作るための支援・指導の工夫	6月18日(火)	授業研究 授業者 千葉市内小学校教諭	千葉市内小学校 校	千葉市内小学校 校長
	9月17日(火)	千葉市内特別支援学校 施設見学	千葉市内特別支援 学校	千葉市内特別支援学校 コーディネーター
	10月22日(火)	実践報告会	千葉市内小学校	千葉市内小学校 教諭
	11月19日(火)	発達障害児における性教育	養護教育センター	千葉市内小学校 校長 千葉市内特別支援学校 教諭
	1月21日(火)	情報交換会	千葉市内小学校	

2 作品展について

- ・7/30～8/5で実施。7/8、9、10～16:30までに提出予定→要綱をよく読んで取り組みを。

(変更点)

- ・八切り 横長で作成。
- ・台紙の外側に学校名をのせる。ガムテープで裏打ちをし、その上に学校名を記入。

3 グループにわかれての情報交換

○絵をかく会のテーマについて

- ・クレヨンを溶かして木を描く。
- ・写真をカーボン紙で映して描く。
- ・絵本をテーマにして想像して描く。
- ・スクラッチ

→テーマを揃えて目標を変えながら取り組んでいたり、交流で行っている場合、交流学級の作品作りと一緒に
行ったりなど様々な方法があった。

★実態にあった絵をかいて、子どもたちと一緒に楽しめる活動を考えることが大切。

○げんきキャンプの活動案

- ・調理実習（カレー・やきそばなど） →事前指導が大切。

★目先のことでなく、6年間を見通して計画を立て、そのうえで今の実態にあった目標設定をしてプログラム
を組んでいくことが大切。

○会計について

- ・全員一人ずつ会計を作成。
- ・学級で作成し、個別に買うものは個別に集金。

○集団授業と習熟度別授業の良さと課題について

- ・「ボウリング」は有効的。いろいろな目標設定で学習することができる。

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Bブロック	5月	34人	養護教育センター研修室5

1 主題と年間計画について

・特別支援教育部会研究主題

特別な教育的支援を必要とする児童生徒の理解と支援・指導のあり方

・Bブロックの主題

一人一人がもてる力を発揮するための支援のあり方

・年間計画

テーマ	月日	内 容	会 場	助 言 者
一人一人がもてる力を発揮するための支援のあり方	6月18日(火)	授業研究会「理科」 授業者 千葉市内中学校 教諭	千葉市内中学校	千葉市内中学校 校長
	9月17日(火)	学習会 「期限付き生徒への対応」	千葉市中央コミュニティセンター	養護教育センター 主任指導主事
	10月22日(火)	授業研究会「作業学習」 授業者 千葉市内中学校 教諭	千葉市内中学校	千葉市内小学校 校長
	11月19日(火)	施設見学・学校説明会 【調整中】	【調整中】	
	1月21日(火)	アンケートをもとにした 学習会	千葉市中央コミュニティセンター	千葉市内小学校 校長

2 自己紹介

稲毛区・中央区、美浜区・花見川区、若葉区・緑区の3グループに分かれて行った。今年度が初参加の特別支援学級担任の先生も多く、学級の様子や困り感を共有した。

- ・学級内で学習の進度が合わず、授業内容を考えることに難しさを感じている。
- ・休み時間の過ごし方の指導
- ・性的問題を抱える生徒への対応
- ・家庭の問題に対する支援の方法 など

3 諸連絡

(1) 次回について

- ・6月18日(火)14:00から 上履きを持参。
- ・駐車場は、誘導係の指示に従って停める。

(2) げんき交流会について

当日使用するフライングディスクが不足しているため、市内中学校3校に協力していただき集めることとなった。

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Cブロック	5月	36人	養護教育センター研修室4

1 今年度のブロックテーマの決定

- ・ Cブロックテーマ

「学級で生き生きと生活できる子どもの育成を目指して」

2 今年度の研修日程・計画についての協議、各例会の会場の相談

日時	活動内容	会場
6月18日（火）	○言語：教材紹介・実践（構音・吃音） ○難聴：ケース会議、情報共有	千葉市内小学校
9月17日（火）	○研究授業に向けたグループ協議 提案者：市内小学校 教諭	千葉市内小学校
10月22日（火）	○こども病院見学ツアー・講話 講師：こども病院 言語聴覚士	こども病院
11月19日（火）	○授業展開 授業者：市内小学校 教諭 ○協議会 助言者：未定	千葉市内小学校
1月21日（火）	○県教研報告 ○きこえの指導について	オンライン

3 担当者同士の諸連絡、質疑等

- ・ 6月例会での講話内容の確認
- ・ 県特連等についての連絡

市教研 特別支援教育部会 例会報告書

ブロック名	月例会	参加人数	会場
D ブロック	5 月	1 6 人	千葉市教育会館 302.303

1 主題と年間計画について

・特別支援教育部会研究主題

特別な教育的支援を必要とする児童生徒の理解と支援・指導のあり方

・D ブロックの主題

子どもの特性に合わせた教材づくり～教材の共有と発展～

・年間計画

テーマ	月日	内 容	会 場	助 言 者
子どもの特性に合わせた教材づくり～教材の共有と発展～	6 月 18 日 (火)	ギガタブを使った教材づくりについて	千葉市内中学校	千葉市内中学校教諭
	9 月 17 日 (火)	授業研究会指導案検討 授業者 千葉市内中学校 教諭	オンライン	千葉市内特別支援学校 教頭
	10 月 22 日 (火)	授業研究会 授業者 千葉市内中学校 教諭	千葉市内中学校	千葉市内特別支援学校 教頭
	11 月 19 日 (火)	ギガタブ教材 成果と課題 (新しいアプリに慣れよう)	千葉市内中学校	なし
	1 月 21 日 (火)	一年間の振り返り 次年度の見通し	オンライン	なし

2 自己紹介

3 諸連絡

(1) 次回について

6 月 18 日 (火) 14:00 から 上履きとギガタブを持参。

駐車場は、係の指示に従って停める。

(2) 予算について

(3) classroom について

オンライン研修や連絡で使用するので、各自で確認をする。